

修士論文（要旨）
2018年1月

擬音語・擬態語に関する一考察
— 「*ABAB*」型の単語に焦点をあてて—

指導 青山 文啓 教授

言語教育研究科
日本語教育専攻
215J3007
張 鳳梅

Master's Thesis(Abstract)
January 2018

Some Thoughts on Onomatopoeia in Japanese:
Focusing on ABAB-type Reduplicated words

ZHANG FENGMEI
215J3007

Master's Program in Japanese Language Education
Graduate School of Language Education
J. F. Oberlin University
Thesis Supervisor: Fumihiro Aoyama

目次

第1章	はじめに.....	1
1.1	研究の背景.....	1
1.2	ABAB型単語の定義.....	1
1.3	副詞と擬音語・擬態語の三者関係.....	3
1.4	〈副詞〉と擬音語、擬態語の三つの用法：動詞との共起関係からの考察.....	5
第2章	擬音語・擬態語の用法分類：動詞による分類.....	12
2.1	回転運動.....	12
2.2	上下運動.....	16
2.3	空間の移動.....	18
2.4	感情.....	19
2.5	感覚.....	20
第3章	基本的な音象徴.....	25
3.1	両唇破裂音/p,b/.....	26
3.2	歯茎破裂音/t,d/.....	28
3.3	軟口蓋破裂音/k,g/.....	29
3.4	歯茎摩擦音/s,z/.....	30
第4章	まとめと今後の課題.....	32

参考文献

資料

要旨

日本語は擬音語・擬態語が豊富な言語であると言われる。擬音語・擬態語のうち、ABAB 型の単語は一番数が多く、代表的である。筆者のように擬音語・擬態語が少ない言語を母語とする日本語学習者にとっては理解しにくい。従来擬音語・擬態語は副詞だと言われている。しかし、一部の擬音語・擬態語は動詞と共起するが、副詞のあるものは助動詞と呼応する。この理由で副詞を動詞、助動詞、名詞を基準にして〈副詞〉、擬音語、擬態語を三つに分けた。具体的にはサラサラを例として見てみよう。

(1) 間もなく、水はサラサラ鳴り、天井の波はいよいよ青いほのおを上げ、やまなしは横になって木の枝に引っかかって止まり、その上には、月光のにじがもかもか集まりました。(国語 六下希望, 2006, 小)

(2) マツが生きていた頃はきれいに櫛が入れられ、さらさら輝いていた髪も、艶が失せ、無造作に両耳の後ろで束ねられていた。(文芸ポスト, 2005, 文学/芸術)

(3) 私どもは、日米間の互譲精神、しかも、日米間の両国の関係がまずくなつてはいけないという基本的な考えがございまして、従属的とか、そういうような考えはさらさら持っておりません。(国会会議録, 1979, 常任委員会)

例(1)では、サラサラは動詞「鳴る」を修飾しているため、サラサラは擬音語だと考えてよいだろう。例(2)では、サラサラは動詞「輝く」と共起し、髪の状態を表している。また、「輝く」は音を要求しないため、サラサラは擬態語だと考えられる。例(3)ではサラサラの後ろに動詞「持つ」が後続しているが、サラサラと「持つ」は文法上は関係ない。サラサラは程度副詞「少しも、全然」と置き換え、「そういうような考えは全然持っておりません」とも、「そういうような考えは少しも持っておりません」ともいえる。サラサラという単語は「持つ」という動詞の後ろに現われる否定の助動詞と呼応している。「持つ」という動詞を削除して、「そのような考えはさらさらありません」という文にしても、文の全体から見れば不自然なところはない。要するに、(3)のサラサラは原則として否定形ともに使われる場合の程度副詞と同じ用法を持っている。このような場合、(3)のサラサラを擬音語でも擬態語でもなく、〈副詞〉だと考える。

もちろん、擬音語・擬態語の中でスカスカのような動詞と共起しない語もあるが、サラサラ、ゴロゴロのように動詞と共起する語が多く存在する。それで、共起する動詞の種類が似ている擬音語・擬態語は宮島(1972)の動詞の動作・作用を参照しながら、回転運動、上下運動、空間運動、感情と感覚5種類に分類した。具体的には回転運動を例として見てみよう。

(4) いろんな思いが彼女の頭の中でぐるぐるとまわっていることがわかっていたので、僕も口をはさまずにそのとなりを黙って歩いた。(村上春樹著 『ノルウェイの森』, 1987, 91.4)

(5) 先生の奥さまは歩きながら、白いパラソルをクルクルと回している。(出久根達郎著 『養生のお手本』, 2005, 914)

(6) 機体は大揺れに揺れ、わたしたちも機体の一方の側からもう一方の側へゴロゴロと転がるありさまだった。(アン・モロー・リンドバーグ著;中村妙子訳 『翼よ、北に』, 2002, 289)

(7) コロコロ転がった玉はようやくその動きを止める。(あかほりさとる著 『Maze☆爆熱時空』, 1995, 91. 4)

例(4)、(5)、(6)、(7)ではグルグル、クルクル、ゴロゴロ、コロコロ四つの擬音語・擬態語はそれぞれ共起する動詞「まわる、回す、転がる、転がる」である。これら四つの動詞はいずれも回転運動を表している。学習者が同じ動作・作用を表す動詞と一緒に擬音語・擬態語を習得すれば、理解しやすくなるだろう。

次に、擬音語・擬態語の語頭が無声阻害音/p, t, s, k/と有声阻害音/b, d, z, g/の単語を両唇破裂音/p, b/、歯茎破裂音/t, d/、軟口蓋破裂音/k, g/と歯茎摩擦音/s, z/四つのグループに分けた。文の中で擬音語・擬態語と共起する動詞あるいは名詞から判断して、以下のようにまとめた。C₁が/p, b/、C₂が/k/の単語は上下、左右あるいは不確定の方向に向けて動き、C₂が/t/の単語は「叩く、当たる」の意味を持つ。C₁が/t, d/、C₂が/r, k/の単語は液状の物を修飾する。C₁が/k, g/、C₂が不確定の単語は浜野(2014)が「硬質の表面に当たる音や様子」に関連すると示している。C₁が/s/、C₂が/r/の単語は滑らか、順調に進む意味を表す。C₁/s, z/、C₂が不確定の単語は液体の物を描写する。今回の研究により、学習者が知らない擬音語・擬態語と出会っても、音象徴の特徴の概要が推測できるようになれば幸いである。

参考文献

- 金田一春彦〔編〕(1976)『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房
- 金田一春彦(1978)「擬音語・擬態語 概説」『擬音語・擬態語辞典』角川書店
- 田守育啓(2002)『オノマトペ 擬音・擬態語をたのしむ』岩波書店
- 高橋太郎/金子尚一/金田章宏/齋美智子/鈴木泰/須田淳一/松本泰丈(2005)『日本語の文法』ひつじ書房
- 仁田義雄(2002)『新日本語文法選書 3 副詞的表現の諸相』くろしお出版
- 浜野祥子(2014)『日本語のオノマトペ音象徴と構造』くろしお出版
- 宮島達夫(1972)『動詞の意味・用法の記述的研究』国立国語研究所 秀英出版
- 三上京子(2006)「日本語教育のための基本オノマトペの選定とその教材化」『ICU 日本語教育研究 3』国際基督教大学日本語教育研究センター
- 南不二男(1967)「文の意味についての二、三おぼえがき」『国語研究』24 國學院大學国語研究会
- 益岡隆志/田窪行則(1992)『基礎日本語文法—改訂版—』くろしお出版

辞書

- 浅野鶴子/金田一春彦(1978)『擬音語・擬態語辞典』角川書店
- 阿刀田稔子/星野和子(1993)『擬音語擬態語使い方辞典』創拓社出版
- 飛田良文/浅田秀子(2002)『現代擬音語擬態語用法辞典』東京堂出版

参考 URL

用例を収集したコーパス：NINJAL-LWP for BCCWJ

<http://nlb.ninjal.ac.jp/> (最新閲覧日：2018年2月4日)